

事業計画書

事業名	食農体験プロジェクト
実施場所	一般社団法人 食育スタジオ Dreamy (沼津市大岡)
実施予定期間	※イベントや研修会等の当日だけでなく、準備期間・実績の取りまとめ期間等も含めて記載して下さい。 3年 4月 1日 ~ 4年 2月 28日

◎事業概要

※事業の概要を100~200字で簡潔に記載して下さい(事業の紹介などで使用します)。

- ① 農業体験 夏野菜チーム4~8月、冬野菜チーム9~12月 各8組
- ② 収穫体験 6~12月 各月4組
- ③ クッキング講座 5~12月 収穫野菜を使用 各月8組

◎目的

野菜を苗から収穫まで育てることで、鳥や虫などの天敵から守り、予想できない気象条件など自然の中で野菜を育てる難しさや収穫の喜びを知る。収穫直後の味や香りを感じ五感を育てる。旬の野菜や郷土の気候に合った野菜を知る。農業や食への関心、理解を深め地元農業生産者と繋がることで、地産地消の大切さを学ぶ。野菜が育つ過程を知ることで命の育みや食べ物大切さを感じ、食べ物の背景を感じながら感謝して食べる気持ちが生まれ、情緒豊かな子供に成長する。新鮮な食材を使用した調理の栄養価を学び、自分で作った料理の美味しさを感じながら食べ、毎日食べることに幸せを感じる。子育て世代とシニア世代がいっしょに事業に関わることで、地域が活性化し、市民の健康への意識が高まる。

◎実施内容

日程	実施項目・作業項目
4月1日~	使用する畑の整備(水路修復工事) 植え付け準備(スタッフ2名×3日間)
4月~8月	① 農業体験 夏野菜の植え付け(スタッフ5名×2日間) (農業指導1名、作業補助3名、事務局1名) 参加者8組 植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認(スタッフ1名) グループLINEを通じ苗の成長写真の送信、相談対応(スタッフ1名)
9月~12月	冬野菜の植え付け(スタッフ3名×2日間) 参加者8組 植え付け後の水やり追肥の指導、苗の生育状況の確認(スタッフ1名) グループLINEを通じ苗の成長写真の送信、相談対応(スタッフ1名)
6~12月	② 収穫体験 野菜の収穫状況に合わせ随時開催

	<p>参加者 4 組×7 回（スタッフ 2 名×7 回）</p> <p>③ クッキング講座</p> <p>収穫可能な野菜を使用し随時開催</p> <p>参加者 8 組／月（栄養士 1 名）</p> <p>実施場所：食育スタジオ Dreamy 沼津市大岡 3 6 2</p> <p>対象者：① 野菜栽培に興味があり、畑へ頻繁に来ることができる家族 ② 地産地消に興味のある家族 ③ 食に関心があり、調理体験をしたい家族</p> <p>人員配置：随時管理スタッフ 1 名、農業体験補助スタッフ 3 名 栄養士 1 名、事務局 1 名</p>
--	--

◎事業効果

<p>※事業の実施により、期待される効果を記載して下さい。</p> <p>野菜栽培を通して、自然の中で植物を栽培することの難しさを感じ、食べ物大切さを感じ、命が育むしくみを知ることにより、生きることに向向になる。</p> <p>生産者と参加者（消費者）をつなぎ、地産地消を推進する。</p> <p>様々なイベントが中止になってくる中、感染リスクの少ない野外での作業で体を動かし、野菜を育てる楽しさを感じることができる。</p> <p>SNSを通し、大人数で集まることなく参加者同士の交流ができる。</p>			
成果指標	<p>※事業効果を客観的に評価できるよう、具体的な数値等を用いて成果指標を設定して下さい。</p> <p>沼津産野菜の栽培について新たな学びがあった→100%</p> <p>調理の楽しさを感じることができた→100%</p>	指標の検証方法	<p>※左記指標の検証方法を記載して下さい。</p> <p>事業開始時と終了時にアンケート調査を実施する。</p>

◎評価の視点に合致していることの説明 ※評価の視点については、募集の手引きを必ず確認して下さい。

公益性・必要性	<p>※公益性：地域のまちづくりの推進に如何に寄与できるのか、不特定多数の市民の利益にどうつながるのか等について記載して下さい。</p> <p>※必要性：事業を実施する意義や、本ファンドによる助成が有益で質の高い事業展開につながる理由を記載して下さい。</p> <p>農業や調理の体験を通じて、子どもたちの食への関心を深める。沼津の農作物が育ちやすい豊かな気候や農業の魅力を感じ、地元への関心を高める。</p> <p>学校の調理実習が行われない状況が続いているため、感染リスクの少ない少人数や家族単位で調理体験をし、「食」への興味が高まり、調理力をつけることができる。</p>
地域性	<p>※地域の実状と課題をどう捉え、事業を行うことによってどのように課題を解決するのか、また、地域の特性や地域資源をどのように活かしたか、などについて記載して下さい。</p> <p>市内の農地が減り、農業を体験したことがない子どもが多い中、野菜栽培を通して生産者との交流をはかる。温暖な静岡の気候で育つ野菜のおいしさを知ることができる。虫や鳥、暴風雨などのこの地域の自然環境の中で野菜栽培の難しさを感じることができ、産直などで販売している野菜に興味を持つことにつながる。</p>
先導性	<p>※事業の新規性や独自性など、新たにチャレンジする点、工夫した点などについて記載して下さい。</p> <p>農業体験から調理までを弊社敷地内で全て実施することができる</p> <p>農業体験や収穫体験だけでなく、本事業では苗から育てた野菜を使用し、参加者自身が調理することで、食材を大切にすることを学び、調理力を身に付け、自身の育てた野菜を調理して味わう喜びを感じることができる。</p>

<p>発展性 ・ 継続性</p>	<p>※発展性：活動の広がりや波及効果がどのくらい見込め、地域の発展・活性化につながるのか記載して下さい。 ※継続性：本ファンドによる助成終了後も継続的・自立的な活動とするために、事業実施体制や活動資金の確保などどのように取り組んでいくのかについて記載して下さい。 広報めまづにて参加者募集をすることで、本事業の周知につながり、開催内容や参加者の感想などをSNSを通してPRすることで、本事業をモデルとして、市内の生産者と消費者の交流の場が増える。収穫と調理体験を合わせた企画により、スタジオレッスンの参加者が益々増える。生産量を増やし、JAの産直へ出荷する回数を増やし、無人販売にもつなげていきたい。</p>
<p>実現性 ・ 妥当性</p>	<p>※実現性：事業目的と事業内容は合致しているか、実現のために事業内容、予算の積算、自己資金の準備、スケジュール等について工夫した点を記載して下さい。 ※妥当性：各種法令順守、関係者との調整状況、費用に対する事業効果の妥当性について記載して下さい。 既存のスタジオ及び自家菜園にて事業を実施するため、会場費を削減できる。生産者がJA営農経済センターにて野菜の栽培についていつでも相談できる関係性ができている。 参加者の体験用スペース以外でも、様々な野菜を栽培し、収穫体験時に収穫できる野菜を確保する必要がある。 調理体験講師は、開催月に応じ、収穫した野菜を活用できるレシピを開発し、おいしく食べる方法を参加者に提案する。</p>
<p>活動に対する熱意</p>	<p>※活動の動機、活動に対する意欲・熱意について記載して下さい。 まちづくりファンドにて移設リニューアルをした「食育スタジオ Dreamy」を引き続き活用する。全市民を対象とし食への関心を深めより年齢層を広げていきたい。温暖な気候に恵まれた沼津市で、野菜の栽培を通し沼津市の魅力を感じながら、生産者や参加者同士の交流を深めていく拠点になるよう、今後も当スタジオを活用していきたい。</p>

◎次年度以降の活動予定

<p>※ソフト部門（ステップアップ型）新規または2回目の応募で、助成の継続（最大3年まで）を希望する場合は、今後の活動予定と事業継続のための戦略について記載して下さい（今回の応募が次年度以降の助成を約束するものではありません）。</p> <p>農業体験として野菜の栽培と収穫と、調理体験を結びつけた企画を継続し、参加者の幅を広げていきたい。年間を通して収穫できる野菜を栽培し、スタジオレッスンで活用できるようにしていきたい。市内の子育て世代の多くの方々が、気軽に足を運び農業体験をすることができる企画や、収穫仕立ての野菜を使用したスタジオレッスンを随時企画して参加者を増やしていきたい。</p>

◎実績の評価と改善点（継続事業のみ）

<p>※継続事業については、過去の実績に対する自己評価と実績を踏まえた改善点等について記載して下さい。</p> <p>2020年度は、土づくりから収穫調理までの食農体験を計画したが、コロナの影響で大人数が集まって作業をすることができず、内容を変更して開催した。鉢植えミニトマトや、種まきをしたミニチンゲン菜のプランター栽培を参加者がそれぞれ自宅へ持ち帰り栽培することで、成長を報告し合いSNS上での交流ができた。SNSを通じ栽培中の小さな疑問や質問にも対応し、収穫体験やクッキング講座では、栽培中の野菜についての話もできた。参加者アンケートでは「コロナで様々なイベントが中止になる中、プロジェクトに参加でき、野菜を育てる楽しみや成長の喜びを感じることができた」「今まで食べられなかった野菜を子供が食べられるようになった」「買い物に行って野菜を購入するときに産地を気にするようになった」などの感想をいただき、プロジェクトの目的が達成できたことを実感した。2020年度にできなかった実際に畑での苗の植え付けや栽培を希望する声も多かったため、感染リスクの少ない野外での作業で、参加者数を絞り開催していきたい。</p> <p>クッキング講座も少人数開催で継続し、自分で栽培した野菜を調理する楽しさや、味わう喜びを感じ、「食」や「農業」に興味を持ち、地域農業への関心を高め、食べ物の大切さや命の大切さを知るきっかけになってほしい。</p> <p>事業が周知されることにより、地域活性化につなげ、市民の健康への意識を高めていきたい。</p>
--